

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100527		
法人名	有限会社 konno		
事業所名	グループホーム たんぽぽ ユニット名 A棟		
所在地	宮城県遠田郡美里町北浦字米谷73番地3		
自己評価作成日	平成 25年 11月 22日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成25年12月 3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>スタッフは各人に合った声かけ対応を心掛けています。 入居者さんスタッフ共居心地良く過ごせるよう又生き生きと働けるよう皆が協力し合っています。 利用者様に昔に食された手料理などをお聞きし献立に取り入れて喜んでいただいております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>このホームは2ユニットで、美里町北浦地区にあり、明るく広々としたリビングから国道、鉄道が一望でき入居者もテレビを見たり、談話したり寛いでいる。夏祭りにはグループホーム、有料老人ホーム、ディサービス合同で歌や踊りの出し物と、焼き鳥、焼きそば、ヨーヨー等の出店に家族、近所の方々、ボランティアの方など50~60人程が集まり盛大に行われ入居者も地域の方々と触れ合い楽しい1日を過ごした。看護師が常勤しており、医師、歯科医の訪問診療等、医療面でも安心できるホームである。管理者も家族から「ホームに入って長生きできた」と言われると嬉しいと笑顔で話してくれた。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム たんぽぽ)「ユニット名 A棟」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月1回全体ミーティングを行い理念のキーワード確認と、各棟ごとに一人一人の利用者の状況を報告し合い理念を再確認しています。	事業所理念5項目と、A棟、B棟の目標、「言葉使い、態度に気を付ける、一人ひとりに寄り添う介護」等をホール、玄関の目の付く場所に掲示しているが、ケアの実践に結びついていない。	理念は、事業所がめざすサービスの在り方を示し、日々のケアに意識して取り組み、反映されているかの振り返りが大切である。1年に一回以上の振り返りを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームで行う行事にはボランティアの方の地域の方々に参加いただき交流をしています。地区の健康祭りに利用者さんの作品を通し参加をしました。	夏祭りは案内状を地域に配布し、デイサービスの利用者、家族、近隣の方々、地域ボランティア等多数の方が参加し歌や踊りを一緒に楽しんだ。地域の敬老会、文化祭に絵手紙を出品し地域の方々と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年1回町内の支援学校の生徒さん受け入れ職場体験を行い、認知症という病気と、関わり方を学んで頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町、区長、民生委員、家族会代表スタッフの代表等の参加で、広く話題を設けて情報交換をし、ホームの運営につなげています。	年6回開催し、包括支援センター職員が毎回参加している。出席者より、敬老会出席時のトラブル、耳の遠い入居者への配慮、病院入院中のホームの待機期間等が話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、毎回役場の担当者に参加していただき、現状を伝え、アドバイスをいただいています。	介護保険の更新、処遇加算手続きの説明等相談している。町の包括支援センター主催の認知症研習会に、ケアマネジャーが参加している。今回の外部評価に町の健康福祉課より出席を頂いた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、施錠せず、両ユニット間でも行き来している。又、天気も考慮しながら気分転換を兼ねて外気浴を実施。夜間は防犯上の理由から、玄関は施錠している。	身体拘束や高齢者虐待についてケアマネジャーが全体ミーティングを通して職員に弊害を話し、拘束や虐待のないケアに努めている。帰宅願望の方は家族と相談をし、月1回の自宅の外泊とカラオケに行き今は落ち着いている、	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	代表スタッフが研修に参加し、学んだ事を全てレポートにして渡してくれました。一人一人が再確認しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	御家族や、遠方に親族が居り、現在必要とする方はいないが研修等で権利擁護について学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に詳しく説明を行い契約書を交わしています。また、改訂がある時は、家族会の時に説明し、了承を得て行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族が来所した時の利用者さんへの要望、家族会で交わされた意見等は毎日のミーティング時に話し合い、検討し実行するようにしています。	家族会や来訪の時、毎月請求書を送付時にイベントの写真や手紙で現況を伝え、意見、要望を聞いている。家族より「外出を増やして」、「毎月送付の写真をアップにして」等サービスに反映された。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例の全体ミーティングを行い、両ユニットで、利用者様の状態報告・業務内容等について話し合いの場を設けている。	入居者の状態と留意点等会議やミーティングで話し合い、申し送りノートに書き共有している。性格や相性を把握し食事の席の配置換え、ADL低下のトイレ排泄の声掛け、排泄チェック表の改良等反映された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ一人一人の状況(社員・パート別・個々の体調・家庭環境等)を考慮しシフトを調整しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	8～10月にかけて、認知症実践者研修へ職員1名参加。その中の自施設研修にて全スタッフ参加で、理念の再確認と各ユニットでケア目標を設定し、それを念頭におきながら日々のケアに従事している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者を招き、意見交換、情報交換を行い、認知症への理解と対応、サービスの質の向上をさせていけるように努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者さんを良く知る身近な方々からの聞き取りで、今までの生活歴や、現在のshん新状況を把握し、本人との面談では気持ちに添い信頼を築けるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	何でも話していただけるような場の雰囲気作りを心掛けていくと共に、家族関係にも配慮し各々の気持ちを受け止めるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントに基にスタッフ間で援助、支援を検討をし、援助計画を作成し支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎食後のお盆拭きや、テーブル拭き、また、新聞たたみ等をお手伝いしていただいたり、会話の中で経験豊富な知恵を学ばせていただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	裁縫いや皮むきの得意な入居者様にはお手伝いをして頂いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様のご協力を得ながら、ご自宅への外泊やその他外出等の支援を行い可能な限り実現できるようにした。	家族、ゲートボール友達の来訪がある。娘や弟さん宅に外泊する方、地域の敬老会に出席する方、馴染みの美容院に行く方、カラオケ教室に行く方、家族、友人に手紙を出す等関係が途切れない支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で、利用者様同士が穏やかに過ごして頂けるよう、関係性を把握しながら、トラブル等を回避できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ本入所された利用者様に関して、当ホームでの生活状況の情報提供を行った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今年度3名の新規入所、1名の居室変更がありました。新しい雰囲気の中で、安心して過ごして頂けるよう、個々の思いを汲み取れるような支援を心がけました。	入居者の思いは、居室で不穏な時に一緒にテレビを見たり添い寝をした時に「一緒に散歩しましょう」、「明日息子さんが来るよ」等安心に繋がる支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の様々な状況をケアマネジャーとの連携で把握し、スタッフ全員が情報を共有し、ミーティング、申し送りノートで再確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の様子、申し送りをミーティングで把握しその都度対応を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のミーティングで利用者様の状況を確認し、御本人の思い、ご家族の意見も尊重し、スタッフ皆で介護計画を作成しています。	日々の業務日誌、本人、家族の思いをスタッフで共有しケアプランを作成している。3か月に1回見直し、家族に報告している。腰痛の方の訪問マッサージの実施、食事の席替えなどケアプランに反映させた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子、申し送りノート、業務日誌への記入事項を徹底し、毎日のミーティングで情報を共有し、検討しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族様へ電話をかけたいと申し出があった利用者様においては、電話をお貸ししたり手紙などは、ケアマネがポストへ投函しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	絵手紙などで、季節を感じ取ってもらってます。ボランティアの先生方とはすっかり顔なじみになり、お話も楽しんでます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診体制の利用者様は各自、前日に状況を伝えていきます。かかりつけは入所時、利用者様・御家族様の希望で決めています。	かかりつけ医の受診は家族、職員が口頭や連絡表を持参しケースバイケースで同行している。結果は申し送りノートに記入し、家族に報告している。9名の方が医師の訪問診療を受け看護師がバイタルチェックしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ミーティングや申し送りノートで常に看護師と共有しています。夜間も携帯で急変時対応出来る状態でご家族にも必要時はすぐ連絡をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は看護師がケアマネージャーが同行し、担当医、看護師との面談に同席しています。診療情報等で適切な支援が出来るようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族様と話し合いを持ち、意向を伺いながら、安らかな終末を迎えられるよう、かかりつけ医とも連携してのターミナルケアを行いました。	重度化した場合の看取り指針を成文化しており、入居時家族の同意を得ている。入居者の変化に合わせ関係者と話し合いを持ち段階的に合意し、職員も看取りの勉強会を実施している。過去9例の看取りを経験をした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師の指導で、応急処置の勉強会とヒヤリハットの事例からスタッフ全員で再度対応を確認しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、地域の区長、近隣住民などに呼びかけ、避難訓練を年2回実施しています。	地域住民、ガソリンスタンドの所長さんが参加し避難経路、場所の確認をしている。消防署より「風上に避難・通報を早く・夜間の場合は先ず火災通報」等アドバイスがあった。防災機器の点検にも立ち会っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとつひとつの介助ごとに声掛けする事の徹底、個々の自尊心を傷つける事のないように羞恥心に配慮したケアに努めています。	主に名前はさんづけで呼びかけ、学校の教師をしていた方を先生と呼ぶと笑顔で答えてくれる。入居者と話す時は良く聞き否定しないで、笑顔で選択枠を設けるなど、その人に合わせた対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様それぞれの言葉を傾聴し、可能な限り、思いや希望を実現できるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調・気分を考慮して、個々のペースに合わせた生活が出来るように心掛けている。又、普段の会話の中で、時間・季節が関わるような内容を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った装いが出来るよう、日々の洋服選びも利用者様の意向を伺いながら決めていきます。又、2ヶ月に1度、理髪の出張サービスにて、利用者様の整容を実施しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の下膳や、テーブル拭きを、スタッフ利用者様と一緒にしています。又、可能な利用者様と、庭の畑で野菜の収穫をしたり牛の筋取りを行いました。	献立は、入居者の好みを聞き地元の食材を取り入れバランス良く職員が調理している。行事食のちらし寿司、赤飯、郷土料理のはつと汁、外食のカッパ寿司等入居者の楽しみである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	疾病により、食事制限のある利用者様もいらっしゃいますが、好みを伺いながらバランスを考慮して可能な限りご希望に添った物を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促す声掛けを行い、又、介助が必要な利用者様に対してはスタッフが対応し、義歯洗浄・口腔ケアを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時系列で、排泄パターンがわかる様式を使用し、こまめにトイレ案内を実施。汚染時には、速やかに交換。又、洗浄・清拭を行っている。	トイレの排泄を基本とし、一人ひとりの状況に合わせ歩行介助や声掛けで誘導をしている。夜間は声掛けやオムツ、ポータブルトイレなど個別に対応している。入居時声掛けでオムツから布パンツになった方2名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトなど水分多く摂って頂き、ホール内の歩行、音楽に合わせて体を動かしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望にも添いながら気持ち良く入浴して頂けるよう浴室内の温度にも配慮しながら入浴の支援をしている、又、排泄介助と同様に皮膚トラブルのないように努めている。	希望を聞き、週2～3回実施している。拒む人に職員を変えたり、「体を綺麗にしましょうね」等誘い方に工夫をしている。家族の希望で軟膏を塗り湿疹対策をしている方もいる。脱衣場と浴室は暖かくし支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不穏状態の方には、寝付くまで横に一緒に居てあげる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は看護師が管理しています。病気と薬についてはケアマネージャーからの説明受け状況が変われば看護師、ケアマネージャーを交え、ミーティングし、申し送りなどで皆で把握しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌を聞いたり、歌ったりして楽しんでいます。ボランティアさんの協力で絵手紙などもしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の外出(花見・あやめ・ひまわり)で四季を感じてもらっている。	天気の良い日はホームの週辺を散歩し、雨天の時ホール内を歌を歌いながら回っている。ドライブで車椅子の方もリフト車を使用し、牛飼公園、素山の花見、古代の里の菖蒲、三本木のひまわり見学に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ADLの低下と認知の進行があり、お金を持つ事、使う事は困難である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能である利用者さんに限られていますが、申し出があった際に、ご家族とお話したり遠方のご友人へのお手紙の郵送を支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースにおいては、季節に合わせた装飾を施し、外出が困難な利用者様にも季節の雰囲気を感じて頂けるよう心掛けています。	食堂兼ホールは広々として明るく、臭気や空気のよどみがない。季節感のあるポインセチアやシンビジュームの生花、クリスマスツリーが飾られている。ホールで入居者同士がテレビを見たり、楽しそうに談話している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にソファを置いて、食卓席だけでなく、思い思いにくつろいで頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人・御家族様からお話を伺い、使い慣れた、馴染のある物を使用して頂いています。又、定期的に清掃を行い、歩行の妨げにならないよう配置を検討しています。	日当たりの良い居室には、馴染みのテレビ、机、椅子等を持ち込み、壁にはゲートボール仲間や家族の写真が飾られ、居室で本を読んだり、テレビを見たりゆつくりと寛ぎ、居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各自の私物には記名をして、洗濯物の仕分けをして頂いています。又、生活の中においても、見守りしながら出来る事は、ご自身でして頂けるように促して支援しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	
法人名	有限会社 konno
事業所名	グループホーム たんぽぽ ユニット名 B棟
所在地	宮城県遠田郡美里町北浦字米谷73番地3
自己評価作成日	平成25年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成25年12月 3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各入居者様に合わせた対応を心掛け、声掛け、見守り、介助など、その日の利用者様の体調などに合わせ臨機応変に対応しています。入居者様同士の交流も多く、利用者様、スタッフ共に笑顔も多く、居心地の良く、穏やかに過ごせる様に皆が協力合っています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホームは2ユニットで、美里町北浦地区にあり、明るく広々としたリビングから国道、鉄道が一望でき入居者もテレビを見たり、談話したり寛いでいる。夏祭りにはグループホーム、有料老人ホーム、ディサービス合同で歌や踊りの出し物と、焼き鳥、焼きそば、ヨーヨー等の出店に家族、近所の方々、ボランティアの方など50~60人程が集まり盛大に行われ入居者も地域の方々と触れ合い楽しい1日を過ごした。看護師が常勤しており、医師、歯科医の訪問診療等、医療面でも安心できるホームである。管理者も家族から「ホームに入って長生きできた」と言われると嬉しいと笑顔で話してくれた。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム たんぽぽ)「ユニット名 B棟 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回のスタッフとのミーティングや毎月の利用者の状況の変化について話し合いを行っている。	事業所理念5項目と、A棟、B棟の目標、「言葉使い、態度に気を付ける、一人ひとりに寄り添う介護」等をホール、玄関の目の付く場所に掲示しているが、ケアの実践に結びついていない。	理念は、事業所がめざすサービスの在り方を示し、日々のケアに意識して取り組み、反映されているかの振り返りが大切である。1年に一回以上の振り返りを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の一人として、街の敬老式、行事等地域活動に参加し、地元の人々と交流する事に努めている。	夏祭りは案内状を地域に配布し、デイサービスの利用者、家族、近隣の方々、地域ボランティア等多数の方が参加し歌や踊りを一緒に楽しんだ。地域の敬老会、文化祭に絵手紙を出品し地域の方々と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	食料を地産地消で、地元の方と交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	最低2ヶ月に1回の割合で開催している町、地区の区長、施設側からと意見交換を行い、運営に役立てている。	年6回開催し、包括支援センター職員が毎回参加している。出席者より、敬老会出席時のトラブル、耳の遠い入居者への配慮、病院入院中のホームの待機期間等が話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	研修会等出来るだけ参加している。	介護保険の更新、処遇加算手続きの説明等相談している。町の包括支援センター主催の認知症研習会に、ケアマネジャーが参加している。今回の外部評価に町の健康福祉課より出席を頂いた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けず、職員見守りのもと、外気浴等、利用者様が安全に過ごせるよう努めています。	身体拘束や高齢者虐待についてケアマネジャーが全体ミーティングを通して職員に弊害を話し、拘束や虐待のないケアに努めている。帰宅願望の方は家族と相談をし、月1回の自宅の外泊とカラオケに行き今は落ち着いている、	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加をし、学んだ事を伝達研修で職員全員での確認をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修会を開いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時点できちんと契約書を交わし、説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や、ミーティング等で要望等は伝達され実行出来るように検討しております。	家族会や来訪の時、毎月請求書を送付時にイベントの写真や手紙で現況を伝え、意見、要望を聞いている。家族より「外出を増やして」、「毎月送付の写真をアップにして」等サービスに反映された。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々感じる不備など毎日のミーティング時に提案している。	入居者の状態と留意点等会議やミーティングで話し合い、申し送りノートに書き共有している。性格や相性を把握し食事の席の配置換え、ADL低下のトイレ排泄の声掛け、排泄チェック表の改良等反映された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員、パート別、又個々人の体調、家族環境を考慮し勤務。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の現状に合った研修や講演会への参加を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者主催の勉強会に参加し、交流を計りつつ、認知症への理解と対応について学んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様からの心身の状況を可能な限り拾い、安心して生活していただけるよう援助している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族くつろいでいただき、自由に話せる雰囲気を作り、不安や困っている事等、本音で話していただけるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランに基づき支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	選択たため、食器の下膳、食器拭きなどを手伝っていただいたり、時には、入居者の方にスタッフが、人生におけるアドバイスをいただくこともあります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	往診や通院の際など、家族の方にも立ち会っていただくなどし、本人と家族の交流の機会を増やししながら、ホームと家族とで、ご本人をサポートしていくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の敬老会やイベントなどに参加し、馴染の方との交流を図ったり、面会の方には、居室にて周りを気にせず会話出来るように心掛け、再度訪問していただける気持ちになるようにしている。	家族、ゲートボール友達の来訪がある。娘や弟さん宅に外泊する方、地域の敬老会に出席する方、馴染みの美容院に行く方、カラオケ教室に行く方、家族、友人に手紙を出す等関係が途切れない支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人一人の心身状態を把握し、お互いが、助け合えるように席替えをしたり、声がけをするように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほとんどの利用者様が終末期まで利用されている為、その後の係わりはないです。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅願望や、不穏時などは特に気を付け言葉を掛けさせていただき、常に穏やかに過ごしていただけるようケアしております。	入居者の思いは、居室で不穏な時に一緒にテレビを見たり添い寝をした時に「一緒に散歩しましょう」、「明日息子さんが来るよ」等安心に繋がる支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活情報をすぐ確認出来るようにファイリングしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	なるべく、ご自分のペースで過ごしていただけるようにしております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のミーティングの中で、利用者様の状況を確認し、CMを通し、家族に報告し本人様にとって、今一番良いと思われる介護計画を皆するようにしている。	日々の業務日誌、本人、家族の思いをスタッフで共有しケアプランを作成している。3か月に1回見直し、家族に報告している。腰痛の方の訪問マッサージの実施、食事の席替えなどケアプランに反映させた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、生活の様子、申し送りノートへの記入事項を徹底し、毎日のミーティングでの情報を共有し、検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近くに通院の際は、歩いて行ったり車椅子の方は、ディサービスからリフトカーを借りて対応している。家族が泊まる際はベットの貸し出しや食事の提供などもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの皆様などによるレクリエーション等の機会を設け、楽しみのある暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様やご家族様の希望を聞き、相談の上かかりつけ医を決めている。通院、往診にも可能な限り、家族様にも同席していただくようにしている。	かかりつけ医の受診は家族、職員が口頭や連絡表を持参しケースバイケースで同行している。結果は申し送りノートに記入し、家族に報告している。9名の方が医師の訪問診療を受け看護師がバイタルチェックしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の状況はミーティングや申し送りノートで常に看護師と共有している、夜間や急変時に対応可能な状態で家族様にも必要時にはすぐに連絡している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、診療情報等で適切な支援が行えるようにしている。入退院時は看護師、CMが同行し、担当医・看護師の面談に同席している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	心身状況に応じて担当医、ご家族、ホーム側と話し合いの場を設けている。看取りについての、本人、家族の意向に沿うようにチーム全体で支援している。	重度化した場合の看取り指針を成文化しており、入居時家族の同意を得ている。入居者の変化に合わせ関係者と話し合いを持ち段階的に合意し、職員も看取りの勉強会を実施している。過去9例の看取りを経験をした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	NSの指導の下、応急処置の勉強会や、救急救命講習などを受講するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	防災マニュアルを作成し運営推進会議を通じて地域の方々に呼び掛け、避難訓練を年2回実施しています。	地域住民、ガソリンスタンドの所長さんが参加し避難経路、場所の確認をしている。消防署より「風上に避難・通報を早く・夜間の場合は先ず火災通報」等アドバイスがあった。防災機器の点検にも立ち会っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	必ずプライベートスペースにはノックして入るようにしている。会話の中でも、ご本人様を否定しないように会話する事を心掛けている。	主に名前はさんづけで呼びかけ、学校の教師をしていた方を先生と呼ぶと笑顔で答えてくれる。入居者と話す時は良く聞き否定しないで、笑顔で選択枠を設けるなど、その人に合わせた対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度、選択肢を用意し、自己決定できるようにしている。自分の思いを伝えられるような関係を作れるように心掛け接している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ごとのペースを大切にし、本人様の希望に沿った一日を過ごしていただくようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは、ご本人様に服を選んでいただくようにしている。時にはスタッフが本人の了解の元、髪の毛を結んだりしておしゃれを楽しむこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好み合わないメニュー際は、別メニューを出す場合もある。下膳、食器拭きなどスタッフと一緒にしていただいている。	献立は、入居者の好みを聞き地元の食材を取り入れバランス良く職員が調理している。行事食のちらし寿司、赤飯、郷土料理のはつと汁、外食のカッパ寿司等入居者の楽しみである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居様の病歴に配慮しながら、減塩や味付けに注意をしている。時には違うメニューを出す場合もあり、個々の状態に合わせた、形態にし、なるべく摂取していただけるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様に応じた口腔ケアをおこなっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	活動の節目や、一人一人の排泄パターンを把握した上での早めの声掛け、トイレ誘導をする様に心掛けています。	トイレの排泄を基本とし、一人ひとりの状況に合わせ歩行介助や声掛けで誘導をしている。夜間は声掛けやオムツ、ポータブルトイレなど個別に対応している。入居時声掛けでオムツから布パンツになった方2名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用し一人一人の排泄状況を確認しながら、運動や食物などで便秘予防を心掛けている。 温野菜などはこまめにメニューに取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1~2日おきに入浴しています。 入居者様の気分が乗らない日は、入浴をシャワー浴にしたり、清拭にしたり、翌日に回すなど臨機応変に対応している。	希望を聞き、週2~3回実施している。拒む人に職員を変えたり、「体を綺麗にしましょうね」等誘い方に工夫をしている。家族の希望で軟膏を塗り湿疹対策をしている方もいる。脱衣場と浴室は暖かくし支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない際は無理には寝せず、その方のペースに合わせる様にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、個人ファイルにて情報を共有しています。 薬の変更があった際はその都度ミーティング、申し送り帳にて皆が把握する事になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月の絵手紙や毎日の歌やラジオ体操などで楽しみや、気分転換を計っている。 入居者様には動く事が好きな方もおりお皿拭きや、洗濯物干しなどをしていただき出来る事のある喜びを楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出チェック表を活用し、天気の良い日はスタッフと近隣を散歩し近隣の方と交流を持ちたり家族の方と通院後に外食してきたりする方などもある。	天気の良い日はホームの週辺を散歩し、雨天の時ホール内を歌を歌いながら回っている。ドライブで車椅子の方もリフト車を使用し、牛飼公園、素山の花見、古代の里の菖蒲、三本木のひまわり見学に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でお金をお預かりし、買い物の希望があれば一緒に買い物に行き、見守りの元買い物を楽しんでいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自らの電話の要望があれば子機を渡し居室にて会話を楽しんでいただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々で飾りを変えたり、季節の花々を飾り、施設内でも季節感が感じ取れるようにしている。床暖を入れており共有スペース、居室、すべてが同じ温度にしておりヒートショックの防止に努めている。	食堂兼ホールは広々として明るく、臭気や空気のよどみがない。季節感のあるポインセチアやシンビジュームの生花、クリスマスツリーが飾られている。ホールで入居者同士がテレビを見たり、楽しそうに談話している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファを直さ目田に座りながら談笑を楽しめる様にしています。又利用者同志が居室にて談笑している際などもある。入居者様に合わせ、席替えなどをし快く過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前の生活の中で、使い慣れた物を使用しあまり生活の変化を感じないように過ごしていただいています。又物がある事で混乱してしまう入居者の方には、一人一人状況を把握しながら対応しています。	日当たりの良い居室には、馴染みのテレビ、机、椅子等を持ち込み、壁にはゲートボール仲間や家族の写真が飾られ、居室で本を読んだり、テレビを見たりゆつくりと寛ぎ、居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室、トイレ、浴室などわかる様に物の名前などを貼り、一人で自由に行動出来るようにしています。移動スペースには物を置かない様にし転倒防止に努めています。		